

第 15 章 東久保南遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐさかい川の谷頭部から、約 400～500m 程下った左岸に位置している。標高 19～21m で現谷底との比高差は 1 m 以下でほぼ平坦である。さかい川は富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源をもつ伏流水で現在は下水路となっている。なお、富士見市にも遺跡範囲は広がり、同じ東久保南遺跡で登録され、同遺跡と接して「オトウカヤマ」と呼ばれる塚がある。周辺の遺跡は、さかい川の対岸に西ノ原遺跡、下流の左岸には中沢遺跡がある。

2014 年 12 月現在 39 ヶ所で調査が行われ、縄文時代中期の住居跡 2 軒、奈良・平安時代の住居跡 4 軒 (1 軒は富士見市域内)、縄文時代の落とし穴・土坑・土坑・炉穴や時期不明の溝跡が確認されている。

II 東久保南遺跡第 39 地点

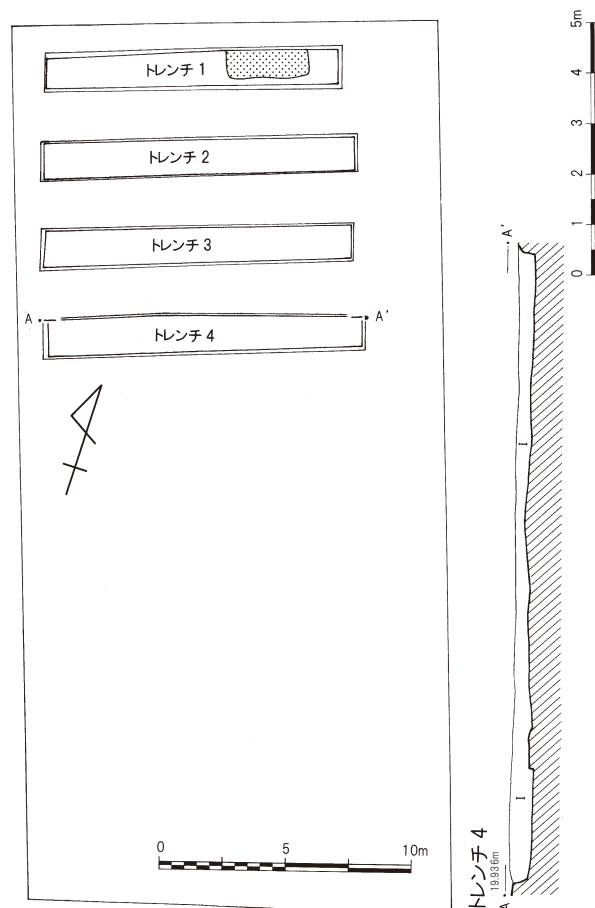
(1) 調査の概要

調査は事務所建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が 2011 年 8 月 4 日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

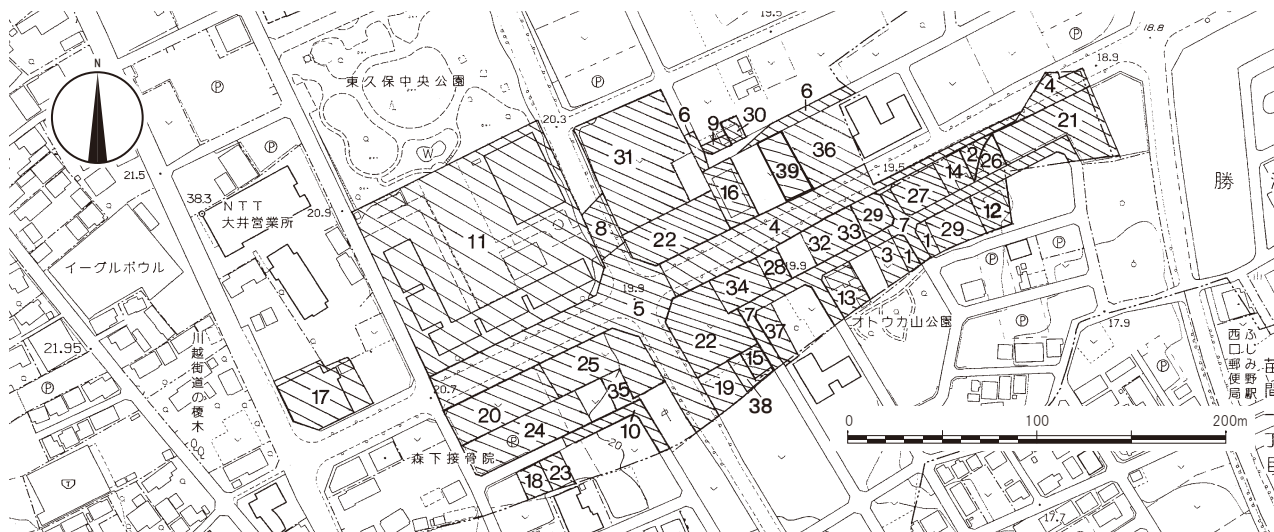
試掘調査は 2011 年 8 月 11 日～16 日に行った。幅約 1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。地表面から地山ローム層までは約 30 cm であったが、遺構・遺物は確認さ

れなかった。

写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



I. 耕作土・表土



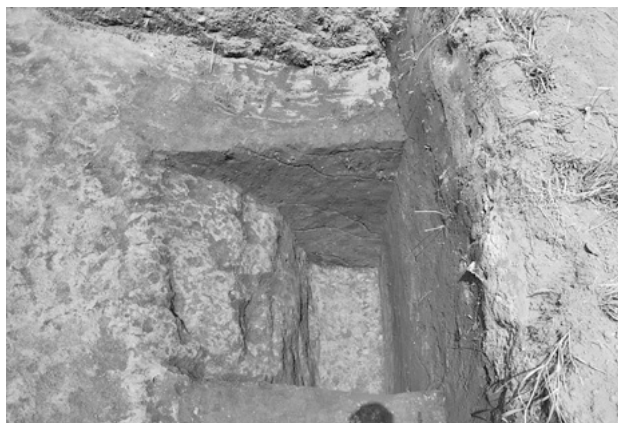
第 66 図 東久保南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)、第 39 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



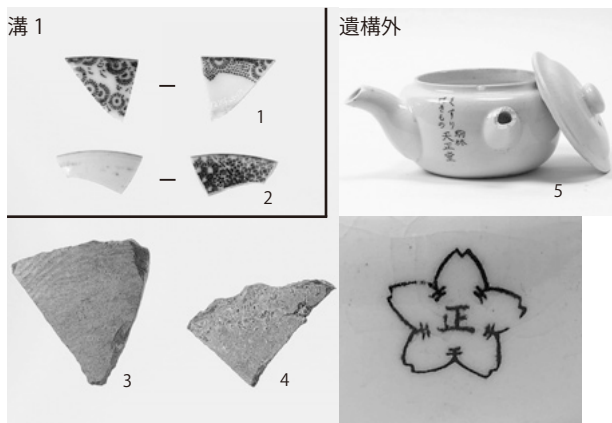
駒林遺跡第 28 地点 A 区全景



駒林遺跡第 28 地点 B 区全景



駒林遺跡第 28 地点 A 区掘跡



駒林遺跡第 28 地点溝 1、遺構外出土遺物



福岡新田遺跡第 2 地点調査風景



福岡新田遺跡第 2 地点トレンチ 1



東久保南遺跡第 29 地点調査風景



東久保南遺跡第 29 地点調査風景